

【初山ペタンコ祭りの由来】

昔から毎年6月1日は、足利富士浅間神社の山開きと、この一年の間に生まれた赤ちゃんの初めてのお参り、初山詣の祭りが行われています。

この祭りは今からおよそ300年くらい前から始められたといわれ、神前にて赤ちゃんの額に神社のご朱印をペタンと押すことから「ペタンコ祭り」の名で親しまれており、無病息災、無事成長を祈願する奇祭です。

その昔、足利地方を流れる渡良瀬川は時々洪水を起こし、氾濫していました。そのため作物が取れず飢饉となり、疫病が流行し、多く



上浅間神社



下浅間神社

の幼い命が奪われ、人々は大変困っていました。

その頃、この地方には富士山信仰があり、信徒、行者、先達さんたちが大勢いて、富士講が行われていたそうです。そういったことから、神社のご朱印を子供たちの額に押し、神の御神威によって幼い命を疫病や災難から守るためにこの祭りが始められたと言い伝えられています。今でも、神社の境内には江戸時代の石碑があり当所代官、田部井政右衛門を始め多勢の信徒や行者、先達さんたちの名前が残されています。

そして現在では、富士講が初山講となって、氏子さんや総代さんによって受け継がれ、毎年6月1日の「ペタンコ祭り」が行われています。

麦わら竜の伝説

その昔、足利地方に起こった大飢饉により疫病が流行し、幼い子供たちが大勢亡くなりました。

そしてその年の夏、大雨が降り続き渡良瀬川が大洪水を起こしました。その大洪水はそれはすごい有様で、下浅間神社の裏山に濁流が打ち当たり、風雨で碎けるほどの水勢でした。今でも残っている下浅間神社の裏山の断崖はこの時に削られたものだそうです。

とその時、突如として竜が現れ、浅間山に登ったかとおもうと、すうっと雲の中へと見え入ったのです。すると不思議なことに風雨もやみ、洪水もおさまり、やがて疫病も消えるように治ってしまったそうです。それを見た人々は突然の事に驚き、「竜は浅間様のお使いではないか」と信じるようになりました。そしてそれからは祭りも盛んにし、毎年6月1日の初山開きの祭りで農家の人々が作った麦わら製の竜を買って帰り、井戸端やお勝手、近年では水道の蛇口につり下げ、口から入る悪水除、そして疫病除のお守りとしていたそうです。

昭和20年以後は作る農家の人もなく、消えてなくなっていました。現在では氏子、総代の皆様の努力で復元されています。

